理科課題研究	１．目標　科学に関する課題を設定し，観察，実験などを通して研究を行い，科学的に探究する能力と態度を育てるとともに，創造性の基礎を培う。	
２．内容	３．内容の取扱い	
⑴　特定の自然の事物・現象に関する研究 ⑵　先端科学や学際的領域に関する研究 ⑶　自然環境の調査に基づく研究 ⑷　科学を発展させた実験に関する研究	⑴　内容の構成とその取扱いに当たっては，次の事項に配慮するものとする。 ア　生徒の興味・関心，進路希望等に応じて，内容の⑴から⑷の中から，個人又はグループで適切な課題を設定させること。なお，課題は内容の⑴から⑷の中から２項目以上にまたがる課題を設定することができること。 イ　指導に効果的な場合には，大学や研究機関，博物館などと積極的に連携，協力を図ること。 ウ　研究の成果について，報告書を作成させ，発表を行う機会を設けること。	⑵　内容の範囲や程度については，次の事項に配慮するものとする。 ア　内容の⑴については，高等学校理科の内容と関連させて扱うこと。 イ　内容の⑷については，科学の歴史における著名な実験などを行い，原理・法則の確立の経緯とも関連付けて扱うこと。

各科目にわたる指導計画の作成と内容の取扱い

１　指導計画の作成に当たっては，次の事項に配慮するものとする。

⑴　「物理」，「化学」，「生物」及び「地学」の各科目については，原則として，それぞれに対応する基礎を付した科目を履修した後に履修させること。

⑵　「理科課題研究」については，一つ以上の基礎を付した科目を履修した後に履修させることまた，課題の特性や学校の実態に応じて，授業を特定の期間に実施するなど，指導を効果的に行うこと。

⑶　各科目の指導に当たっては，大学や研究機関，博物館などと積極的に連携，協力を図るようにすること。

⑷　各科目を履修させるに当たっては，当該科目や他の科目の内容及び数学科や家庭科等の内容を踏まえ，相互の関連を図るとともに，学習の内容の系統性に留意すること。

２　内容の取扱いに当たっては，次の事項に配慮するものとする。

⑴　各科目の指導に当たっては，観察，実験などの結果を分析し解釈して自らの考えを導き出し，それらを表現するなどの学習活動を充実すること。

⑵　生命を尊重し，自然環境の保全に寄与する態度の育成を図ること。また，環境問題や科学技術の進歩と人間生活にかかわる内容等については，持続可能な社会をつくることの重要性も踏まえながら，科学的な見地から取り扱うこと。

⑶　観察，実験，野外観察，調査などの指導に当たっては，関連する法規等に従い，事故防止について十分留意するとともに，使用薬品などの管理及び廃棄についても適切な措置を講ずること。

⑷　各科目の指導に当たっては，観察，実験の過程での情報の収集・検索，計測・制御，結果の集計・処理などにおいて，コンピュータや情報通信ネットワークなどを積極的かつ適切に活用すること。